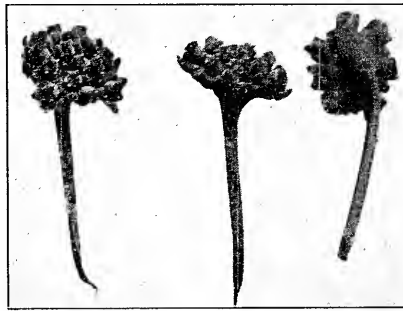
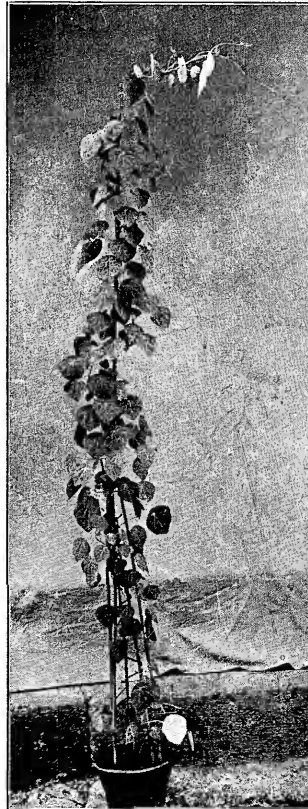


邦産 *Sanicula* 屬ニ蓋シ一種ヲ加フ可キ乎



第十一圖
たまざきつづらふぢノ花



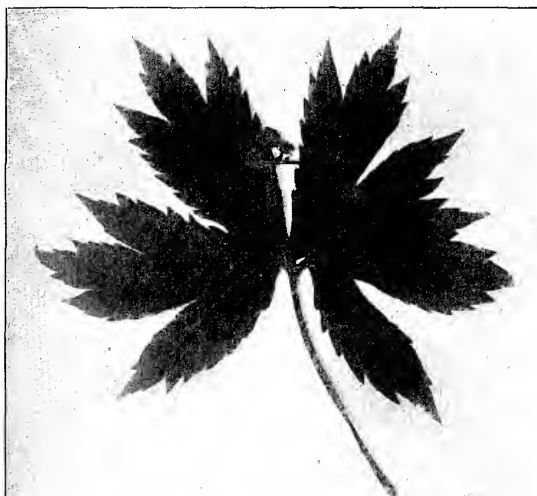
第九圖
たまざきつづらふぢ
(*Stephania cepharantha* HAYATA.)

○邦産 *Sanicula* 屬ニ蓋シ一種ヲ加フ可キ乎

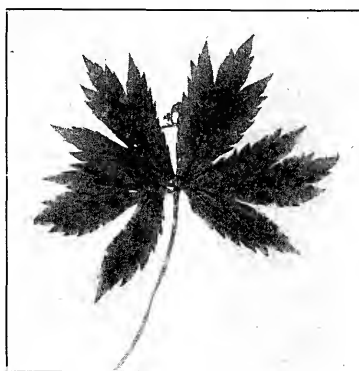
久内清孝

我國産スル所ノうまのみつば屬(*Sanicula*)ハ從來三四種アル様デアル即チうまのみつば、くろばなうまのみつば、ふさやみつば及ビひめうまのみつばデアツテ何レモハッキリシタ種デ相互混同スル様ナモノデハナイラシイ
くろばなうまのみつばノ圖トシテハ原色ニ近イ圖ガ伊藤篤太郎博士ノ日本植物圖彙一ノ六輯ニ載ツテ居ルシマ
タひめうまのみつばヲ除タ三者ヲ並列シタ明瞭ナ圖ガ中井教授ノ朝鮮植物ニ出テ居ル、ふさやみつば丈ハ植

此ノヤウニ臺灣ノ植物ガ東京ノヤウナ寒イ處ノ戸外デモ敢テ凍死セズニ無事ニ越冬スルノハ頗ル珍シイ事ト謂ツテモヨカラウ



第一圖 Sanicula sp. ノ花莖



第二圖 同上ノ裏面

物圖編第一卷ニ中井博士ノ詳圖ガアル、然シ余ハ本年初夏山梨縣下三ッ峠デ其何レニモ充ラザル一種ニ出會ッタノデ之ヲ同好

ニ報告スルコト左ノ如シ

概形ハふきやみつばニ似テ大サハくろばなうまのみつばトふきやみつばトノ中間ニ當ルモノデ小總苞片ハくろばなうまのみつばノ様ニ大キクナク寧ロふきやみつばニ近イ其レカラ花瓣ハ淡黃色(淡々紫ノコトモアル)デ兩藥ノ色ハ白色ニ近イ淡

黃色ヲ呈シ花ノ若イ間ハ他ノ種類ノモノ、如ク内方ニ彎曲シテ後ニ展開スル、葯ノ色ハ花絲ト同色ノ淡黃デアル

全體ノ大サハ花莖ニ於テ高サ平均約二十「セ、メ」、總苞葉ハ直徑

約八半「セ、メ」、四深裂各片ハ銳尖ニシテ三淺裂有鋸齒、花序ハ頂生ニシテ三枝ヲ出シ各花枝ハ中央二半「セ、メ」側出一半「セ、メ」許リ小繖ノ小苞片ハ二個ニシテ線形ナルモ刻裂アルモノモアリ其長サ最大約一「セ、メ」、小繖ハ球形直徑約三乃至四「ミ、リ」、雄性花ハ有梗ニシテ中央部ニ一乃至少數(コノ數ハ二三十本モ見ナイト平均數ヲ確定出來ナイ)未ダ果實ヲ見ズ



澤田氏採集ノモノ
(*Sanicula* sp.)

六千尺内外ノ個所ノ雜草中ニハ普通ノモノナラント思ハレル、經濟學士澤田武太郎君ハ同様ナモノヲ山梨縣毛無山デ大正十五年六月二十七日ニ採ツテ居ルカラソレで見テモ余ノ臆斷ガ證セラレル

【牧野云フ】本植物ハ新種ト思ハル、故近日記載文ト共ニ *Sanicula katensis* MAKINO ET HISAUCHI. ノ新名ヲ發表スル、ソシテ新和名ノやまなしうまのみつばトスル

○『バイブル』ノ植物 (其五)

篠崎 信 四 郎

アダムハ動物ノ種類ニ就イテソレハ其名ヲ定メタ(創二ノ一九——アダムが生物に名けたる所は皆其名となれり)ケレドモ草木ノ種類ニ就イテハ其名ヲ定メナカツタ而シテ草木ハ人及ビ總テノ生物ノ糧トナル物ト思ツタノデアアル、余ハ日本ニ住ムガ故ニアダムヲ人類ノ始祖ト認メナクトモ亦「創世記一ノ二七、神其像の如くに人を創造たまへり」ヲ誤ツテ「人其像の如くに神を創造たり」ト言ツテモ冒瀆罪ニ問ハレル心配ハナイ、創世記ノ或記者ハ生物學者デアッタト見エテ一ノ二二及ビ一ノ二八ニ神ノ言葉ヲ藉リテ「生よ繁息よ」「生よ繁殖

即チ全形ふきやみつばノ大形ノ觀アルモ花瓣ノ先端ハ凹頭ダカラふきやみつばト異レリトス、ひめうまのみつばト斷定シテ見タガ矢部博士ノ日本繖形科論(大學紀要)ニヨレバ雌花ハ一個トアル(マキシモウキチ氏ノ原文ハ見ナイガ)ノニ余ノ言フ所ノモノハ數個アルカラコノ具合ガ合致シナイ、其產地ハ余ノ一二事實ヨリ推セバ山梨縣下ノ高標